

稲畑産業株式会社 東証1部(8098) ファクトシート

プロフィール

稲畑産業株式会社は、情報電子事業と合成樹脂事業を柱とし、化学品、生活産業の4つ*1の事業分野を手がける商社。世界18カ国約60拠点において事業を展開している。高度な専門知識を生かし、企画提案、ロジスティクス、製造・加工機能などを駆使して、グローバルに対応できる商社として、多様な顧客ニーズに応えている。

アジアを中心に製造加工拠点をもち、顧客と密接にかかわることで、新商品の開発情報やマーケットのトレンドを早く掴むことが可能となり、商社ビジネス(trading)の拡大につなげる戦略を取っている。

株式情報 (2018年7月31日)

株価	¥1,645-
発行済み株式数	63,499,227-
時価総額(百万円)	¥104,456-

投資ハイライト

➤ 18/3期は過去最高の売上高となったが、利益面では貸倒引当金計上により計画未達

中期計画1年目の18/3期は、円安の効果や主に合成樹脂事業の好調により、売上高は過去最高値を更新。一方利益面では、欧州子会社における太陽電池関連事業や、中東向けインフラ関連の債権に対する貸倒引当金計上により、計画未達となった。合成樹脂事業は、注力分野である自動車関連をはじめ全般的に販売が好調。7カ国8拠点に展開する樹脂コンパウンド事業を足掛かりとして、グローバルに部品メーカーとの取引が拡大している。情報電子事業は、太陽電池関連で大幅な計画見直しが必要となったものの、主力の液晶関連は偏光板原料の販売を中心に堅調であった。

➤ 中期経営計画「New Challenge 2020」(NC2020)

4カ年の中期経営計画 NC2020(最終年度21/3期)については、重点分野である自動車、ライフサイエンス・医療、環境・エネルギー、農業を含む食品分野へ注力する。

合成樹脂事業:自動車分野のシェア拡大に注力する。グローバル重点ユーザーへの拡販や、メキシコのコンパウンド製造拠点を武器に、北米地域でのビジネス拡大を目指す。

情報電子事業:NC2020期間中、液晶関連は緩やかな成長が続くと想定、引き続き主戦場である中国市場においてシェア獲得を目指す。複写機・プリンター関連で収益を維持しながら、LED関連や新たなエネルギー関連のビジネス育成を進める。

株主への利益還元方針は引き続き総還元性向30~35%目安とする。2019年3月期の配当金は1株あたり48円*2を予定。

NC2020の重点施策

1 海外事業の更なる拡大と深化

2 成長が見込める市場・未開拓分野への注力

- ・自動車、ライフサイエンス・医療、環境・エネルギー分野へ引き続き注力
- ・農業を含む食品分野への新たな展開

3 グローバルな経営情報インフラの高度化

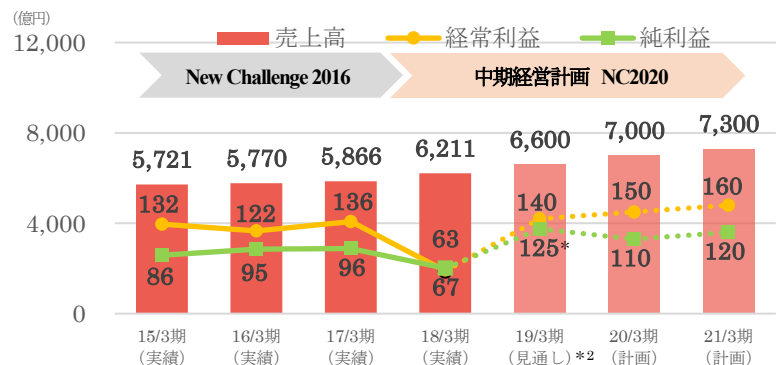
- ・グループ全体最適の徹底
- ・海外事業のマネジメントの高度化と標準化

4 商社ビジネス拡大に向けた投資の積極化

- ・商社ビジネス拡大を主たる目的としたM/A投資の実施
- ・リスク金額を限定したM/A投資の検討

5 保有資産の継続的な見直しと財務体質の強化

6 グローバル人財マネジメントの確立



*2 2019年2月7日修正

コーポレート・ガバナンスの更なる強化

2015年より、指名・報酬委員会(任意)を設置。18/3期の取締役会評価は外部評価を実施し、評価結果と今後の対応を開示。

https://www.inabata.co.jp/themes/inabata/investor/library/governance/file/evaluatio201805_jp.pdf